

いかに創造的に生きるか？ 学んで、仕事に生かそう



49歳2児の父親、埼玉に住んでいる落語家の三遊亭鬼丸です。さて、「シニアライフ案内士」の皆さんへ、ナビゲーターの私からメルマガジン第8号をお届けします。

第3回ライフプランセミナーで講師を務めた若宮正子さんは、ほぼ独学でプログラミングを習得。80歳を超えて「hinadan(ヒナダン)」というスマホアプリを作り、世界最高齢プログラマーと呼ばれている方です。「私の使命は情報発信」。講演の冒頭で、こう語ったのが印象的でした。

私も情報発信が楽しいし、好きです。高座やラジオ、テレビでしゃべる、文章を書くなど伝える手段はいろいろあります。落語は、目の前のお客さんの反応をみながら笑いのツボを探っていく。ただ、ラジオやテレビ、文章はちょっと特殊で、受け手の反応がその場では分かりません。

パーソナリティを務めているNACK5の番組は生放送です。番組を始めた頃、大先輩の大野勢太郎さんから、こう助言されました。「目の前にいる相手と、ガラスの向こうにいるスタッフ、マイクの先にい

るリスナーを意識すること」。

とはいえ、マイクの先にいるリスナーは見えませんし、それぞれが様々な場所や状況で聴いているわけですから想像することすら難しい。私が想定しているリスナー像は、1人で車を運転しながら働いている、ちょうど皆さんと同世代の会社員です。

電車の中で、高校生の会話に思わずクスツとなった経験。喫茶店で1人スマホをいじりながら、隣の席の会話に耳をそばだてるような感覚。高校生が部室で仲間とおしゃべりするように、番組を楽しんでほしい。エッジが効いて「刺さる」話題を伝えています。だから、職場などで大勢で番組を聴いている人たちが時々凍りついている、らしいです。しゃべりであれ、文章であれ、受け手のことを想像して応えたいと思います。

「人生100年時代を創造的に生きたいと思う。そのために学び、それをまた仕事に生かす。生涯学習が重要」。若宮さんはこう語っています。私も肝に銘じたい。さて、皆さんは80歳を超えた達人の言葉をどう受け止めますか。